

ニュースクリップ & 映像教材

- 松下教育研究財団「第33回実践研究助成」募集開始
- 第15回「上月情報教育振興助成事業」募集
- 第9回「世界の優秀企業映像を見る会」
- 第13回「マイタウンマップ・コンクール」作品募集

AV情報

■松下教育研究財団「第33回実践研究助成」募集開始

(財)松下教育研究財団では、さまざまな視聴覚メディア・情報通信メディアを効果的に活用し、教育課題の改善に取り組む実践的な研究に対して、研究助成の募集を行う。

〈内容〉

例) ①学力向上の取組み②総合と教科の連携による人間向上に向けた取組み③メディアリテラシー・情報リテラシー教育に関する取組み他

〈応募資格〉

小学校・中学校・高等学校・特別支援教育諸学校(盲・聾・養)、教育研究グループ(複数にわたる教職員で構成された研究グループ※公的機関の推薦が必要)、国公立の教育研究所・教育センター

〈助成金額・件数〉

助成金50万円×70件

〈研究成果〉

所定の「成果報告書」の提出と「成果報告会」での報告。

〈応募方法〉

所定の「申請書」に必要事項を記入。

〈応募締め切り・結果発表〉

平成19年1月31日(水)消印有効・3月10日(土)応募者へ通知。

〈問い合わせ先〉

(財)松下教育研究財団

TEL 03-5521-6100

<http://www.mef.or.jp>

■第15回「上月情報教育振興助成事業」募集

(財)上月スポーツ・教育財団では、情報教育の振興と発展をめざして、学校教育における情報教育に関する研究、教材の開発、教育実践を助成する。

〈対象となる研究領域〉

各教科における情報教育を目的とした教育実践、「総合的な学習の時間」における情報教育の実践、中学校の「情報とコンピュータ」、高等学校の「情報」の内容に対応した実践など、下記の領域が対象となる。

①情報教育のねらいである情報活用能力の育成を目標にした情報実践

②教科の学習において、教科の目標と子どもたちの情報活用能力の育成を併せて達成しようとする授業実践

③情報教育に役立つシステムやカリキュラム、コンテンツの開発

④教員の情報教育指導力向上のためのカリキュラム開発や研修の実践

〈締め切り〉

平成18年12月15日(金)

〈審査結果発表〉

平成19年3月

〈提出書類〉

トピックス

「第10回視聴覚教育総合全国大会—東京大会—・第53回東京都小学校視聴覚教育研究大会」が開催される

「ネットワーク社会における、視聴覚教育の在り方を明確にしよう—ヒューマンコミュニケーションを進展させるネットワーク社会の光と陰」をテーマに、視聴覚教育総合全国大会連絡協議会（日本学校視聴覚教育連盟・全国高等学校メディア教育研究協議会・全国視聴覚教育連盟・（財）日本視聴覚教育協会・（財）松下教育研究財団）主催、文部科学省・東京都教育委員会・日本放送協会・（社）映像文化製作者連盟・日本視聴覚教具連合会・



港区教育委員会・三鷹市教育委員会後援により、標記全国大会が11月17・18日の2日間開催された。

第1日目は、東京都港区芝浦幼稚園、東京都港区立神応小学校、東京都三鷹市立第七中学校、東京都立北園高等学校を会場に、公開授業のスタイルで、パネルシアターや地上デジタル放送を活用した授業や事例研究交流会が行われた。また、全国視聴覚教育連盟の分科会として、千葉県市川市映像文化センターを視

察・事業参観した。第2日目は、国立オリンピック記念青少年総合センターに会場を移し、各団体の功労者表彰をはじめ、シンポジウムが、午後は、団体別分科会、講演会が開かれた。

展示ホールでは日本視聴覚教具連合会による第42回「教育の近代化展」の機器展示があり、大会終了時には、企業による製品提供の抽選会が行われ、来場者に製品がプレゼントされた。本大会への参加者は延べ460名。詳細は、次号にてご紹介する。

申請書・推薦書（無でも可）

〈助成金〉

①大グループ：70万～150万円
②小グループ：30万～70万円
③奨励助成：10万円

〈問い合わせ先〉

（財）上月スポーツ・教育財団

TEL 03-5414-2811

<http://www.kozuki.or.jp/>

■第9回「世界の優秀企業映像を見る会」

（社）映像文化製作者連盟では、海外映像祭での入賞作品の上映会を開催する。

〈日時〉

平成18年12月14日（木）

14:00～16:30（開場13:30）

〈会場〉

東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内3-5-1）

〈上映作品〉

イギリス・オランダ・スウェーデン・フィンランド・フランス等の7か国12作品の企業映像

〈参加費〉

6,000円

〈問い合わせ〉

（社）映像文化製作者連盟

TEL 03-3279-0236

コンクール情報

■第13回「マイタウンマップ・コンクール」作品募集

マイタウンマップ・コンクール実行委員会ならびに（財）情報処理教育研修助成財団主催による標記コンクールの参加作品の募集が行われている。

〈作品内容〉

学校や家庭、職場で学んでいること、また、グループで共同研究した成果など、自分たちが住んでいる街や村の暮らしぶり、地域の特性・特色や魅力といった身の回りのあらゆる生活情報を素材にして、絵・写真・文章・地図・音楽などで表現したものを募集する。

〈応募対象〉

年齢、性別、国籍は問わない。学校、教育施設、自治体、地域ボランティアなどグループでの参加のほか、個人でも応募可。

〈制作機種〉

制限はないが、機種依存しないものに限定する。

〈締め切り〉

平成18年12月31日

〈受賞作品発表〉

平成19年2月中旬を予定

〈問い合わせ先〉

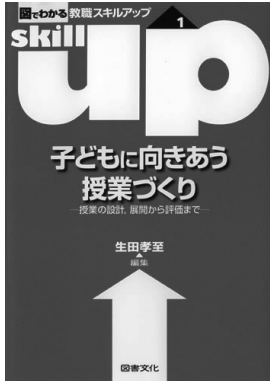
ホームページより問い合わせのこと。マイタウンマップ・コンクール実行委員会

<http://www.mytownmap.or.jp/index.html>

訃報

■元（社）映像文化製作者連盟会長、元（株）岩波映画製作所会長小口禎三氏が、11月11日ご逝去された。享年89歳。

ブックレビュー



「図でわかる教職スキルアップ1 子どもに向きあう授業づくり 授業の設計、展開から評価まで」

生田孝至編集 (株)図書文化社出版
2006年11月刊 A5判 184頁
1,890円 (税込)

教育技術に関する書は世に多くある。これらを頼りに、また先輩の授業を盗み見て、私たちは板書、発問、ノート指導など主要な授業技術を身に付けてきた。今、世代は大きく様変わりしようとしている。「熟達した教師の教育技術を、我々は伝承しなければならない」という使命感によってまとめられた本書は、初任者から10年前後の教職経験者を対象としている。単なるハウツーものとは違い、授業をする上で必要不可欠な技術が具体的にわかりやすくコンパクトに、しかも確かな授業観に基づいて著されている。これが本書の持つ魅力であり、類似書とは大きく異なる点である。

編者は優れた研究者であると同時に、秀でた教育者である。執筆者の多くは初任者の指導に

携わっている現役の教師であり、編者の薫陶を受け、授業の技術とその課題を十分踏まえて「授業のみえる教師に」を合言葉に執筆に当たっている。

各技術について一つひとつその内容に深みがあり説得力があるのは以上のような理由によるものであろう。学習形態、各種メディア、授業展開、教科などの視点で日常必要となる授業技術はほぼすべて網羅されていると言ってよい。

初任者はもちろんのこと、ベテラン教師が自らの技術を見直しブラッシュアップを図るためにも活用が期待される。まさに時代の要請に応えた好著である。加えて言えば、指導行政の任に当たる私どもにとっても手元に置いて参考にした「指導書」である。(多田元樹)

トピックス

学校法人 八洲学園大学
eラーニングによる新たな試み

本誌今年3月号の『「ヒューマンeラーニング」の取り組み』で紹介した八洲学園大学(横浜市、高橋進学長)において、また新たな取り組みが実施された。

八洲学園大学では、スクリーニングやレポートの添削に、インターネットによる学習(eラーニング)を導入しており、今回は、このシステム(eLyシステム)を活用した新たな取り組みである。

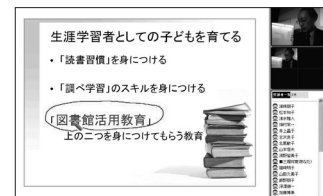
八洲学園大学の高鷲忠美教授(図書館学)が、鳥取県米子市

にある「本の学校」にて、「図書館を生かす・授業が変わる～学校図書館を利用した授業の実践～」と題した講演会を行った(10月23日18:30～20:30)。この講演会の様子を、ライブで八洲学園大学のeLyシステムに送り、公開講座として全国の学生・教職員に配信した。

つまり、学生たちは、鳥取県米子市にいる高鷲教授の講演会を、ライブで大学や自宅のパソコンから視聴し、しかも、チャットで参加することができたのだ。

会場となった「本の学校」には、学校図書館関係者約100名が集まっており、その臨場感とともに、全国の学生たちに配信された。

講演会場には、インターネット環境が整っており、そこに八



洲学園大学で使用しているタブレットパソコン、USBカメラ、PCマイクを持ち込み、NTTのBフレッツ回線を利用している。また、ソフトウェアは、配信用の専用ソフトを利用している。

これまで、講義をする講師は、横浜にある大学からしか講義を配信できなかったが、今回の試みにより、講師が全国各地にいても、あるいは自宅からでも、全国の学生たちに講義を配信することが可能となったわけである。(綾 牧子)

トピックス

エル・ネット「オープンカレッジ」
地域からの情報発信

10月から全国5つのコンソーシアムが中心となって収集・制作した学習コンテンツを発信しているエル・ネット「オープンカレッジ」12月～平成19年1月にエル・ネットで放送される各コンソーシアムのコンテンツは、以下の通り。放送日はエル・ネット欄を参照。

●あおもり教育情報発信・活用促進協議会●

コンテンツ名	コンテンツ概要
我がふるさとシリーズ(4) ①南部小絵馬「秘められた庶民の祈り」 ②北の誇り「亀ヶ岡文化」	①人々の祈りを支えてきた絵馬の由来や、その意味するところを検証する。 ②縄文晩期の土器や漆器をもとに、当時の生活を推定する。
あおもり学特別講座 「戦場カメラマン沢田教一との出会い、そして今」	「安全への逃避」でピューリッツァ賞を受賞した戦場カメラマン沢田教一を支えた夫人・沢田サタさんが、夫との出会い・自らの生き方を語り、教一の素顔に迫る。

●秋田サテライト学習推進協議会●

コンテンツ名	コンテンツ概要
秋田から地球を覗く —秋田の油田物語—	なぜ秋田に石油があるのか。石油鉱床の成立条件や形成史を、秋田大学の教員がリーダーとなっている統合国際深海掘削事業の成果とともに、地球史の観点から解説する。
秋田からの健康発信 —心の処方と地域の和—	秋田県で実践されてきた自殺予防活動を紹介。自殺の現状とその背景、うつ状態にある人の理解や接し方、地域づくりの視点からのアプローチについて講義する。

●金沢大学・石川県・金沢市連絡協議会●

コンテンツ名	コンテンツ概要
ヨーロッパの里山をめぐる問題	バイエルン州など南ドイツは、日本と同様、傾斜地の多い「条件不利益地域」である。里山問題を考えるとき、ドイツの農業と環境政策は参考になる。
テレビ番組 「われら里山大家族」	金沢大学「角間の里山自然学校」を舞台に、市民ボランティアや子どもたちが竹林の整備・棚田の復元・自然観察などの活動を行っている。大学と地域の連携を描く。
白山の記 —越のしらねが育んだ山の民の文化—	白山麓の旧・白峰村は、かつて山の民といわれ、自然の恵みの中で生活を営んできた。そこに人が生きる知恵が豊富にある。貴重な映像とともに、山の民の文化を紹介する。

●大阪生涯学習情報コンソーシアム●

コンテンツ名	コンテンツ概要
国際ボランティア(2) —世界のマイノリティと教育問題—	少数民族、難民、移民などマイノリティは、教育機会が限定されており、学校内でも問題を抱えている。国内・国外のマイノリティの教育問題を解説する。
国際ボランティア(3) —被災地の復興支援—	東ティモールにおける紛争後の援助方策、パキスタンの被災地における子どもの心理的ケアを目的とした活動などを事例に、紛争後や被災地での復興支援について考察する。
ボランティア(3) —高齢者福祉に対する社会貢献—	大阪府社会福祉協議会老人施設部会の社会貢献事業は、自らの資源を使って地域のケースに関わっている。その具体的なケースも交えて、地域における福祉問題について考える。

●久留米地域参画推進連絡協議会●

コンテンツ名	コンテンツ概要
エイジングと栄養①	加齢による身体機能の低下は、努力次第で遅らせることができる。健やかなシニアライフを楽しむための食生活について概説する。
エイジングと栄養②	シニア世代が豊かな「食」の体験を通して培ってきた健康生活を、次世代に継承すること(食育)の意義を考える。食事バランスガイドを参考に解説する。
シニアのための食生活①	献立作成から食品の購入、保存の仕方、調理に至るまでの一連について、初めて料理を作る人でも理解できるよう、平易に調理の基本を概説する。
シニアのための料理②	健康状態に配慮したさまざまな調理法を学び、栄養的に工夫した短時間で簡単にできる、おいしい手間なし料理を実習風景と共に紹介する。
エイジングと運動	ライフスタイルの変化やエイジングが健康に及ぼす影響を理解した上で、そのような諸問題を解消したり軽減したりするのに適した運動を実践的に紹介する。

◆問い合わせ 文部科学省生涯学習政策局参事官(学習情報政策担当) 付 電話 03-5253-4111(内線 2363・2941)